

# 北上川バレープロジェクト構成市町における産業分野・生活分野への先端技術活用等の取組【八幡平市】

■取組名  
遠隔診療・見守りDX基盤の構築による持続可能な地域づくり事業(八幡平市メディテックバレープロジェクト)

■分野  
産業分野  
生活分野

■目的  
遠隔診療と見守りを融合させた基盤の社会実装を行うとともに、今後のスケールアップに必要な人材を育成することによって、地方に共通する課題を解決可能な技術とビジネスを生み出す「メディテックバレー」を実現し、持続可能で稼ぐ力のある地域を実現する。

■成果  
9割以上の高齢者が問題なく使用しており、医師が常時見守ってことで安心感を得ているなど非常にポジティブな影響をもたらしている。また見守りには遠方に在住している家族も参加しており、同居せずとも常に寄り添うという、新しい家族の形が見え始めている。

■内容・特徴  
常勤医師が不在となった高齢化の著しい地域を中心に、市販のデバイスと独自のアプリを用いた極めて安価な遠隔診療の仕組みを実装。同一のシステムで、離れていても家族を見守ることが可能な仕組みをも実現している。  
またデータを通常の通線分の一に極小化する独自技術について疾病リスク予測AIの構築をはじめとした他分野への展開も検討中。開発と展開に必要な人材を域内で育成することによって、過疎地に次世代の成長産業を育成している。

■今後の課題  
本年度の実績を元に、プロジェクトへの参画自治体を増やす活動を強化する。

■予算額と今後の取組について  
R3年度:33,410千円  
R4年度:35,480千円  
ドローンの有人エリアで目視外飛行の解禁を受け、携帯電話圏外におけるドローンの利活用について、前倒しで取り組みを始めることで遠隔診療におけるLTE圏外での山間部での薬のドロップシップ等の社会実装を企図する。

遠隔診療

遠隔見守り

@大更地区  
八幡平市立病院

@田山地区  
診療所、自宅等

地域住民、  
市外の家族

離れた病院に居る医師がバイタルを元に診察

離れた住む家族も、スマートフォンで見守ることが可能

市販のデバイスを装着するだけで、常にバイタルや位置情報を送信・蓄積